

ふくしま新生子ども夢プラン令和6年度総括

I 出会い・結婚・妊娠・出産の希望の実現

※指標の達成状況を4段階で表しています。



モニタリング指標 =

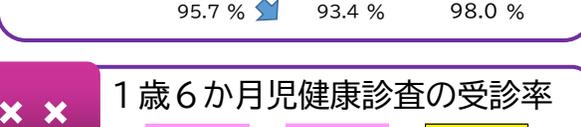
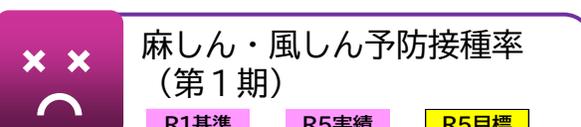
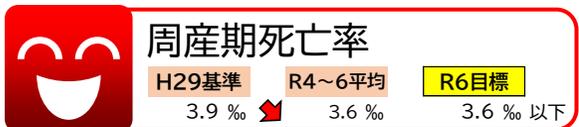
◆令和6年度指標実績概況

★家庭を築き子どもを生み育てる環境づくり



〈少子化関連指標〉		全国	福島県
合計特殊出生率	R5	1.20	1.21
	R6	1.15	1.15
50歳時未婚割合	男【R2】	28.25 %	28.33 %
	女【R2】	17.81 %	15.25 %
平均初婚年齢	夫【R6】	31.1 歳	30.7 歳
	妻【R6】	29.8 歳	29.4 歳
有配偶出生率	【R2】	73.0 %	72.1 %

★切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健・医療対策



※黄色塗り潰し = 総合計画の基本指標(以降同じ)。

◆結果の分析と主な課題・対策

○合計特殊出生率については、全国的に低下傾向にあり、本県は全国値よりも高い水準にあったが、その差は年々縮小し、令和4年以降は全国とほぼ同水準で推移し、令和6年は全国と同じ値となった。

○婚姻数については、全国が前年よりも増加した一方で、本県は5,599件から105件減(△1.9%)となった。出生数は、全国・本県ともに減少しており、本県においては令和5年の9,019人から803人減(△8.9%)となった。いずれも、20代から30代前半の人口流出により、本指標の母数となる若い世代の人口が全国よりも大幅に減少していることが大きく影響していると考えられる。

○合計特殊出生率、婚姻数、出生数は、基準年・前年と比べて減少しており、本県の少子化は深刻な状態となっている。少子化の背景には、経済的な不安定さ、出会いの機会の減少、仕事と子育ての両立の難しさ、家事・子育ての負担が女性に偏っている状況など、希望の実現を阻む様々な要因が絡み合っており、総合的な対策が必要であることから、若い世代が結婚や子育てに希望を持ち、子育てに伴う喜びを実感できるよう、市町村や民間企業・団体など、様々な主体と緊密に連携し、ライフステージに応じた切れ目のない支援を実施していく必要がある。

◆対応する行動計画と主な令和6年度事業

I-1-(2) 若者の就業に対する支援

- ふくしまで働こう！就職応援事業
- 『感働！ふくしま』プロジェクト

I-1-(3) 独身男女の交流等への支援

- 結婚・子育て応援事業

I-2-(1) 安心して妊娠・出産・子育てできる保健・医療体制の整備

- 福島県周産期医療システム整備事業
- 妊婦にやさしい遠方出産支援事業
- ふくしま子ども・女性医療支援センター運営事業

I-2-(2) 不妊や不育症に悩む夫婦に対する支援

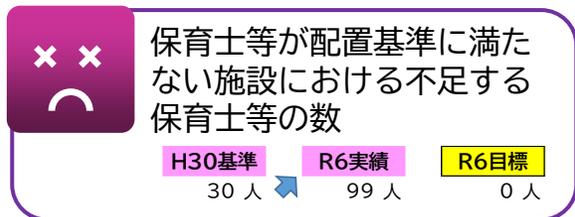
- 不妊症・不育症支援ネットワーク事業
- 不妊治療支援事業

I-2-(3) 妊娠期からの継続的な支援体制の強化

- 妊産婦等支援事業
- 市町村妊娠出産包括支援推進事業

II 子育て支援

◆令和6年度指標実績概況



◆結果の分析と主な課題・対策

○保育所等の整備により定員が増加したことなどから、待機児童数は減少を続けていたが、一部で保育士の不足が生じていることや、想定より保育の申込が多かったために、令和6年4月1日現在の待機児童数は増加となった。今後も待機児童の解消に向けて、保育の受皿や保育人材の確保が求められる。

○放課後児童クラブについては、クラブの増設等により受入定員は増えたものの、核家族・共働き世帯などの増加に伴い、児童クラブへの申込者数が年々増加しており、待機児童が生じていることから、放課後児童支援員や実施場所の確保が課題となっている。

◆対応する行動計画と主な令和6年度事業

II-1-(1) 保育の受け皿の整備

- 認定こども園施設整備事業
- 教育・保育施設整備事業

II-1-(2) 保育人材の確保

- 保育士修学資金貸付等事業
- 保育人材総合対策事業
- 保育人材確保対策事業

II-1-(5) 子育て支援の拠点や子どもの居場所づくり

- 放課後児童クラブ施設整備事業
- 放課後児童支援員認定資格研修事業

II-1-(6) 多様なニーズに対応した子育て支援サービスの推進

- 地域の子育て支援事業
- 病児保育促進事業

III 子どもの健やかな成長と自立

◆令和6年度指標実績概況

★教育の充実

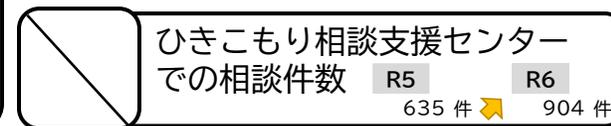
ふくしま学力調査の結果の経年比較により、学力が伸びた児童生徒の割合



全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの全国平均との比較割合（全国=100）



★子どもの尊重と生きる力の応援



◆結果の分析と主な課題・対策

○各学校、各学級における結果分析と授業改善をどのように推進していくかが課題である。県が公表している「ふくしま学力調査分析報告書」や「学力の伸びを引き出した学校の取組事例集」等の公表資料、オンライン説明会等を通して、継続して働きかけていく方針である。

○「ひきこもり相談支援センター」への相談者の実人数は214名であり、年齢別に見ると10代から30代までが172名を占める。引き続き、関係機関と連携を図りながら一次窓口であるセンターの周知に努めるとともに相談の内容に応じて適切な支援機関につないでいく。

◆対応する行動計画と主な令和6年度事業

III-1-(4) 不登校やひきこもり状態等の子どもへの支援

- ひきこもり対策推進事業
- 不登校・いじめ等対策推進事業

III-2-(2) 健やかな体の育成

- ふくしまっ子健康マネジメントプラン

III-2-(3) 確かな学力の育成

- 一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業
- グローバル人材育成事業

III-2-(5) 学校の教育環境の整備

- 少人数教育推進事業
- 福島県子どもの学習支援事業

IV 援助を必要とする子どもや家庭への支援

◆令和6年度指標実績概況

★児童虐待防止



★障がい等のある子どもへの支援



★子どもの未来が貧困に妨げられないための支援



◆結果の分析と主な課題・対策

- 児童虐待対応における警察、学校、各自治体間の連携が進んだこと等により、児童虐待対応件数は高い水準にあるため、児童相談所において引き続き適切に対応していく。
- 「里親等委託率」については、家庭養育優先の原則の実現に向けた取り組みを進めており、今後も引き続き児童相談所等関係機関と連携しながら新規里親の増加と里親等への委託を推進していく。
- 「子どもの居場所」については、県による開設費用の補助やこどもの居場所立ち上げ講座の開催等により、設置数の増加に繋がったと考えられる。

◆対応する行動計画と主な令和6年度事業

- IV-1-(3) 児童虐待防止体制の整備**
 - 虐待から子どもを守る総合対策推進事業
 - こどもの見守り・自立応援事業
- IV-1-(4) 家庭での養育が困難な子どもや虐待を受けた子どもに対する支援**
 - 里親総合対策事業
 - こどもの夢を応援する事業
- IV-2-(2) 発達障がいのある子どもの早期発見・早期療育のための支援**
 - 発達障がい者支援体制整備事業
 - 発達障がい者支援センター運営事業
- IV-3-(5) 地域で支援を届ける仕組みづくり**
 - こどもの居場所づくり支援事業

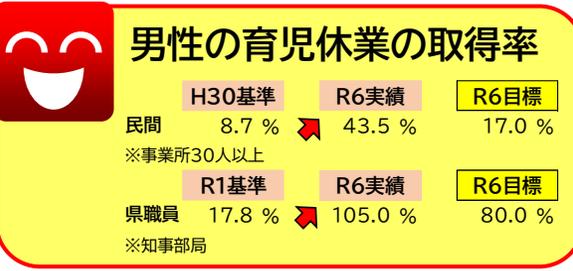
V 子育てを支える社会環境づくり

◆令和6年度指標実績概況

★地域ぐるみでの子育て支援の推進



★子育てと社会参加の両立のための環境づくり



◆結果の分析と主な課題・対策

- 「男性の育児休業の取得率」については、出生時育児休業の導入など、国をあげての後押しにより、男性が育児休業を取得しやすい雰囲気醸成され、数値が順調に推移している。引き続き、専門家の企業への派遣、助成金制度、企業認証制度などにより普及啓発を図っていく。
- 「福島県で子育てを行いたいと回答した県民の割合」は、令和2年度の67.1%をピークに年々減少傾向にある。社会全体で子育てを支援していく環境づくりをより一層進め、子育て世代のみならず、すべての県民に、福島県はこどもや子育て世代にやさしく、子育てのしやすい県であると実感してもらうことが課題となる。

◆対応する行動計画と主な令和6年度事業

- V-1-(4) 子育て支援団体や企業等による子育て支援活動の充実**
 - 子育て・子育て環境づくり総合対策推進事業(地域で支える子育て推進事業)
 - 子育て応援パスポート事業
- V-2-(2) ワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方の普及促進**
 - ふくしまで輝く女性活躍促進事業
 - 女性活躍・働き方改革促進事業